

揖斐川町学校教育の在り方審議会

きよみず幼稚園保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年2月17日（火） <開会>15時00分 <閉会>16時00分

2 場 所 きよみず幼稚園 遊戯室

3 出席者

審議会委員 徳永 恵理奈、中島 勝義

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

保護者・家族 7人

幼稚園教員 4人

4 次 第

（1）挨拶&概況説明

- ・ 徳永委員より、開会の挨拶を行う。
- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（2）意見交換

参加者：小学校については人数が少ないことによってとても手厚く子どもたちをみていただける環境だと思っていた。一方、子どもが中学校に入学してからは、1学年に3クラスあることによってクラス替えがあつたり気の合う子と仲良くなれたりといった小学校で経験できなかったことを経験できている。どちらもよい環境だと感じるため、今の状態が一番よいと思っている。

教育長：中学生の子どもに関して、入学してからの1年間に人間関係で困ったことなどはあったか。

参加者：もともと小学校の時には気の合う人がおらず、その中で6年間過ごしたことによって人間関係を学んだのだと思うが、中学校に入学してから今一番人生が楽しいのだろうという様子なので、ありがたいと思っている。ただ、1クラスの中に35人もいる環境だった場合、担任の先生の目が行き届かなくなったり個々のことを理解することが難しくなったりすると思うので、1クラス10人前後がよいと感じている。

参加者：私の子どもは1学級5人のクラスに通っており、一人一人をしっかりとみてくれることはよいと思うが、学力の面でも心配なところがあり、また友達の人数も限られてしまうので、ある程度人数がいたほうがよいと思っている。

参加者：私の幼稚園の子どもが通っているクラスは、最初は10人だったが、途中で複式学級になった。年度の途中でそのようにクラスの人数に増減があることは一般的にはないだろうし、そういう時に人間関係の問題が起きるのではないかという心配がある。実際にトラブルも起きたので、これが幼稚園ではなく成長した小学校で起きた場合にもっとトラブルが大きくなるのではないかと思うと、複式学級になる可能性があるのであれば最初から複式学級にしてもらえるとうよいのではないかと感じる。また、同様に中学校に入学する時には1学年の人数が多くなるため、それまで10人程度で過ごしてきたのに突然クラスの人数が大人数となった時になじめるのだろうか、という不安がある。

参加者：実際自分の子どもが中学校に入学する時も不安ばかりだったが、揖斐川中はそれほど人数が多くないこともあり、同じ清水小出身の先輩が声をかけてくれたので入りやすかったということがあった。今の状態であれば心配はいらないと思うが、もしも中学校がさらに大規模になった場合には清水の子どもがなじめなくなる心配があると感じている。

教育長：適正なクラス数や1クラスあたりの人数をはっきりと答えることは難しいが、文部科学省はクラス替えによる子どもの移動が可能な規模が適当ではないか、と示している。関連して、昨年11月に実施したアンケート調査の結果について紹介すると、保護者世代の方は小学校も中学校も1学年2～3クラスがよいという意見が多くなっていた。例えば小学校が2～3クラスになるためには今ある小学校が1つに統合しなければ難しいが、そうした統合ということについてはどう思われるか。

参加者：統合して人数が増えること自体はよいが、校舎はどこにするのか、遠方の場合の登下校はどのようにするのかという問題があると考えます。

参加者：今の意見と同様で、地域には街灯が少なく暗いところもあるため、登下校の安全性の問題があるのではないかと思います。

教育長：昨日やまと・きたがた幼稚園で同様の会を開催したが、その中でも登下校の話は出されていた。昨日の会で出された意見について、どのような意見があったかを委員からお聞きしたい。

委員：まず、やまと・きたがた幼稚園は少し特殊で、大和地区と北方地区から1つの幼稚園に通うという形態になっている。そのため、小学校入学時には大和小と北方小に分かれ、中学校入学時にまた北和中で一緒になるという環境があるため、そのことに関する意見があった。

また、今の登下校の問題に関しては、夏の暑い時期や熊が出る時期に子どもだけで歩いて大丈夫なのかという心配の声や通学バスの利用を希望する意見、自分の子どもが途中から1人で歩いて帰らなければいけないことへの心配などといった話題が多く出されていた。

教育長：清水小では、何か登下校に関して気をつけていることはあるか。

委員：登下校については、安全サポーターが来てくださったり、教職員が必要な場所で見守りを実施したりしている。また、下校時には1・2年生が1人になってしまうことがないように必ず職員が確認をして、もし1人になってしまう場合で保護者の送迎も難しい時には教職員が家まで送り届けるということも行っている。ただし、清水小においては約6割の子どもが留守家庭児童教室に登録しているため、1・2年生はほぼ留守家庭児童教室に行くか送迎してもらっており、1人で帰ることはおおよそない。

教育長：実は、谷汲小はバス通学を行っており、今はほぼ100%の児童がバスで通学している。

参加者：それはバス停があるのか、それともそれぞれの家の前まで迎えに来てもらえるのか。

教育長：バス停があり、そこで集合する形式になっている。

参加者：私が小学生だった頃もバス通学をしており、当時はバス停から自宅に向かう際にも数人で同じ方向へ帰ることができていたので、安心して下校できていた。

教育長：もしも小学校、中学校が1校になった場合、とても歩いて通うことができない距離になるため、学校を統合する場合には通学バスの導入など登下校の方法が課題になると考えている。

参加者：大垣市の上石津は現在小中学校合わせて1校しかなく、通学バスが広範囲を回るため、

- 通学に1時間ほどかかり、朝は早く帰りも遅くなるという問題があると聞いている。
- 教育長：揖斐川町でも、現在一番時間のかかる坂内の子どもで、北和中まで40～45分かけて通っている。また、谷汲でも高科から通う子どもは30分以上かかっており、久瀬から通学する子どもの中にはバスを乗り換えて通学している地域もある。ただ、揖斐川町はバスの路線がたくさんあるためにそのように通学できているが、上石津では恐らくバスの台数が少ないために時間がかかっているのではないかと思われる。
- 参加者：まだ小学校や中学校のことはよくわからないが、あまり人数が多くても子どもが圧倒されて話せなくなるということもあり得るので、大人数すぎても少なすぎても問題があるのではないかと思っている。
- 教育長：清水小で力を入れていることがあれば、その具体を委員からお聞きしたい。
- 委員：人数が少ないと集団の中での力が育ちにくいということがよく言われているが、体育は2学年合同で実施しており、学年を崩した縦割りの集団で遊ぶ取組みも行っている。休み時間に学年関係なく遊んでいる姿もあるため、そうした点で少人数であることが清水小としての強みになっているところはあると思っている。
- 教育長：昨日の会では子どもたちに自分で考えて行動できる力を身に付けてほしいという意見があったので、委員からご紹介いただきたい。
- 委員：今言われたように、保護者の方から子どもたちに自発的に自分の意見が言える人になってほしいというご意見があり、揖斐川町の幼稚園で力を入れている「主体性を育む保育」について紹介した。幼稚園では、保育士は自由遊びの時間に子どもから意見が出るまで待つ、ということを行っており、子どもたちが自分で考える力が付けられるように一步引いて見守って、子どもから意見が出た時にはそのことを褒めて自信をつけてあげるということを行っている。
- ご自宅でも何でもすぐに与えるのではなく、子どもから意見が出るのを待って、それを聞いて褒めながら実現するというようにすると、子どもたちの自信につながっていくと考えている。そうした積み重ねにより、小学校に入学しても自発的に考えて自分の意見を言える力を育てていきたいと思っている。
- 参加者：きよみず幼稚園でもそうした取組みを行っており、3～5歳児が一緒に遊ぶことで、下の子は上の子の遊びを見て自分で考えながら学ぶことができ、上の子も下の子に教えてあげることができるので、お互いの自信につながっていると思っている。そうした形で、遊びを通じて育つようにということを心がけながら保育を行っており、また各幼稚園の主任保育士たちがそれぞれどのような遊びをしているかなどを共有しながら、子どもたちの主体性が育めるように方向性を話し合っている。
- 教育長：そうした幼稚園で行っている主体性を育む保育を小学校につながなければいけないが、小学校で主体性を育む教育活動として行っていることはあるか。
- 委員：清水小では、学校で配布しているタブレットのルールを自分たちで作るということで、まずは学級で話し合いをして、その内容が児童会に集まり、そして児童会の子どもたちが取りまとめたものを全校のルールとして広めていくという取組みを行っている。こうした子どもたち自身で決めて学校を動かしていく、ということができると主体的な学び活動につながると感じるため、来年度には子どもたちから校長に対して提案があったことを実現していく、という取組みを行っていききたいと思っている。
- 教育長：こうした取組みが、中学校に入学してからさらに社会生活をつくるというところにつながっていくと、子どもたちがより成長できるのではないかと感じている。子ども

たちは自由な発想をもっており、その中で気付いたことや考えたことをどんどん膨らませてあげられるとよいのではないかと、それによって子どもの夢や希望が大きくなっていくのではないかと考えている。

小学校に入学すると教科の勉強が始まるが、今一番授業時間が多い教科は、実は英語である。また、かつては教科ではなかった道徳も教科書で勉強するものになっており、ほかにも1・2年生では理科と社会に代わる生活科という教科や、将来的にはプログラミング教育などを行う情報科という教科もいずれできると思われるが、そのように時代の変化を取り入れながら、教育の内容を変える取組みも行われている。

参加者：子どもたちが少ないと、その少人数の集団のことしかわからなくなるのではないかと考えている。例えば、人数が少ない中でも男女で分けられると思うが、その数人のコミュニティであれば多少のトラブルはすぐに謝って仲直りできる。だが、中学校、高校となるにつれて人数が多くなっていくが、そういった大人数での関わり方について成長できなくなるように感じている。私の上の子は小学校の時にも1学年10人以上いたためある程度の関わり方ができていたが、一番下の子を見ていると幼稚園の頃と同じような関わり方をしているように感じるので、そのまま成長すると人間関係で問題が起きるのではないかと心配がある。

また、先ほど言われた主体性について、主体性そのものはよいが、「子どものやりたいように」というのは少し違うように感じている。大人も主体性を持って子どもに関わらなければ双方成長しないので、子どもの主体性と大人の主体性が一つになることが大事だと思っている。子どもの意見を大事にした結果子どもがやりたいようにやるのではなく、そこに上手に大人が少しずつ関与してお互いに伸びていく、という取組みをやっていくことが大切ではないかと考える。

(3) お礼

- ・ 教育長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会